

常任委員会 活動

■総務文教常任委員会

◆国の補正予算に対する町の取組について

概算見積で2億8百万円程、計上した。基本的には事業の前倒し、或いは財源の問題で先送りになっている事業を、補正予算を財源として行いたい。

問 町の持ち出しは幾らか
答 2千8百万円程度。

問 林道北幌延線新設事業とは。

答 豊富温泉へ向かう登坂車線左側にある取り付け道路を改良し、奥の砂防地域を排雪場所としたい。

問 消防職員の住宅整備計画について。

答 予定地としては神社の東側で、2棟4戸を整備したいと考えている。

問 町道横断管補修事業は何箇所になるのか。

答 幌延3号線の陥没報告を受け、緊急調査をした結果、その他約20箇所程度で3年以内に補修が必要であり、段階的に整備して行くと考えている。

今年度は、4箇所程度を補修。

5月25日から 議員全員による行政研修を実施

福島県

矢祭町（行財政改革）・西会津町（保健・医療・福祉）

原子力施設

福島第1原子力発電所・福島県原子力センター
核燃料サイクル工学研究所・大強度陽子加速器施設
テクノ交流館

矢祭町視察

合併しない矢祭町宣言を全国に先駆けて議決をし、数年後行政の改革で年中無休、さらにフレックスタイム制(時差出勤)を取り入れ仕事前に行政サービスが受けられるようにした。それに続き議会が日当制を取り入れ全国の反響を呼んだ。毎日のように視察が有り我々の視察も3団体一緒の視察となった。未だに第二の矢祭改革が生まれていないのは何故か、議員意識に低下はないか、など色々な疑問を持って挑んだ。

まず町民意識に昭和の大合併の苦い経験があり2度と過ちをしたくないとの思いが40年経った今でも残っている。
町民全体が自ら身を削っても自立に賭ける思いがとても強く、これがボランティア精神を強く結び付けていると思う。結果、町長の強い信念の基、職員の見解があり、行政も年中無休や早朝からのサービスが出来た。議会についてもこれ

までの月額報酬制から日当制に改革されたが、これによつて、議員意識の低下等の質問をしたら、夜間議会が出来るので仕事を持ちながら議員になり易いなどの答えが返ってきた。これは改選期を過ぎて見なければ分からないとの補足もあった。

このことから一つの事だけが突出した改革で実現することではなく、その地域のプロセスや必要性を認識しながら、真似事ではない本町に合った改革の在り方を議論して行く必要性を感じたところである。

矢祭町に続く事例が出て来ないのも改革の難しさを感じた。

自立に向け削減した財政の中でも子育て支援を充実させている。結果として子供の人口の減少は極めて少ないものであった。しかし卒業した子供達が地元に残るには就労の場が少ないのも現状である。

議員全員で視察研修した矢祭町行財政改革は今後の町づくりのあり方に大変参

考となった。

西会津町視察

西会津町は、近年の情報通信技術の発展で、町内全域にケーブルテレビ網を敷設し平成9年、福島県内で初めて独自に町営テレビ局を開局する。

これによりケーブル回線の双方向性を利用した在宅健康管理システムの運用や健康管理、食生活改善など町の進める総合的な健康づくり、いわゆるトータルケアの啓蒙・普及を行い、メディアを通じた意識の高揚を図り予防医療に努めていた。

平成15年からはインター



矢祭町研修風景